

# ピアノ調律技能士

**認定団体** 厚生労働省(※)  
 ※実施団体 一般社団法人 日本ピアノ調律師協会

**受験資格** 原則、ピアノ調律の実務経験が必要(※)  
 ※3級は所定の学歴や職業訓練歴があれば受験できる

**目安となる取得期間** 1年～2年(教育機関の修学年限の目安)

**ニュース & TOPICS**

一般家庭や学校、コンサートホールに出向き、ピアノの調律を行うピアノ調律師。その技能を認定する国家検定が2011年に始まった。合格するとピアノ調律技能士の称号が付与される。検定は3級、2級、1級。取得者の就職先は楽器メーカーや調律専門の会社など。資格はスキルの証明になり、ピアノ愛好家やピアニストを支える専門家として長く活躍できる。

**どう学ぶ?** **ピアノ調律科をもつ教育機関で基礎から学ぶ**

ピアノ調律に関する所定のカリキュラムを学ぶ。教育機関は大学、短大、専門学校、各種学校、ピアノメーカー内の養成機関など。大学の場合を除き、修学年限は1年～2年。調律実技のほか、ピアノに関する知識や音楽の基礎なども身につける。

**どう稼ぐ?** **経験と技術力しだいでフリーで活動する道も**

就職先は楽器メーカー、楽器販売会社の修理・メンテナンス部門、調律専門の会社、ピアノ修理工房など。経験を積みながら技術を磨き、独立してフリーで活動する道も。定期的に調律をしているアップライトピアノ1台の調律料金は1万5000円前後～。



ピアノは複雑で繊細な機能が組み合わさっている楽器。演奏者自身が調律を行う他の楽器とは異なり、ピアノの場合は竹内さんのような専門技術をもつピアノ調律師が不可欠。

**ピアノ調律を学ぶため、地方の大学を卒業後、上京してスクールへ**

26歳でピアノ調律専門の会社に就職した竹内さん。一般家庭を中心に、中学校、ピアノ教室などのピアノ調律に取り組んできた。

**音楽とピアノを奏でる人に深くかかわる仕事。国家検定に合格すれば技術修得の証になり、プロとして究めていく力に**

**ピアノを奏でる人が求める「よい音」を作るのが仕事**

一般的なピアノの鍵盤数は88鍵。そ

この仕事を志したのは、地元岡山の大学の文学部4年生のとき。「一般企業への就職をめざすよりも、何かを作って対価を得るといふ職人仕事に憧れていました。『これだ!』と思ったのがピアノ調律師。僕はピアノを習っていたので、好きな音楽に関われる。才能や運が必要になる演奏家をめざすのとは違い、調律師は地道に勉強して技術を身につければ仕事にできる点にも惹かれました。大学を出て、まずスクールでピアノ調律を勉強しようと思ったんです。資金を貯めるため、大学卒業後の1年は書店や缶詰工場でアルバイトに励んだ。そうして上京し、国立音楽院で2年間、意欲的に学んだ。



**竹内 淳**さん(37歳)

大学卒業後、国立音楽院へ。ピアノ調律科で2年間学んで卒業後、神奈川県の特ピアノセンターに就職。一般社団法人日本ピアノ調律師協会会員。

**ピアノ演奏者を支える仕事として語り尽くせないほどのやりがいがある。技術を高めていきながら長く続けていきたいです。**

れを正しい音程に調律し、最もよい状態で音が出るように「整調」や、微妙な音色を作る「整音」の作業を行うのが仕事。弾き手は子どもからお年寄りまで。ピアノの先生もいます。やわらかい音色に、鍵盤のタッチも軽く、など、個々が求める音を作るために力を尽くします。

「でもあらゆる可能性を探り、解決することに喜びを感じます。調律後に僕の前でお客様が弾いてくれるときはとてもうれしいです。」

国家検定に関しては「よい目標になるし、資格取得でお客様の信頼も得やすくなるでしょう」と竹内さん。検定試験1級の学科に合格し、13年秋に実技試験に挑戦。「僕はピアノ調律師歴10年ですが、これでいいという終わりはない仕事です。次の10年はより技術を高めたい。その入り口に立つために、1級取得は力になると思います。」